

## 東京電力福島第一原発事故について

平成 23 年 5 月 23 日  
市 民 生 活 部

- 3月11日(14:46)に発生した東日本大震災に伴う大津波により、東京電力福島第一原子力発電所が被災し、全電源喪失。原子炉の冷却機能喪失により12日から15日にかけて1号、3号、4号機で建屋が水素爆発により損傷、2号機は原子炉格納容器が損傷し、3月15日を中心に大量の放射性物質が空気中に放出された。

15日夕方から16日にかけて福島県北部では降雨があり、放出された放射能雲が飯舘村近辺に達して滞留・沈着したものと考えられている。

飯舘村、川俣町に隣接する本市でも放射線量が高くなり、特に霊山町石田地区、上小国・下小国地区、月舘町の飯舘村境で線量の値が高くなっている。

- 3月23日、国はSPEED I(緊急時迅速放射能影響予測システム)による被曝試算線量マップを初めて公開し、北西方向への拡散状況が確認された。

- 4月11日、国は、国際放射線防護委員会(ICRP)と国際原子力機関(IAEA)の基準値を基に、20キロ以遠で1年以内の積算線量が20ミリシーベルトに達するおそれのある地域を「計画的避難区域」に設定した。

(上記以外の20~30キロ圏内には緊急時避難準備区域を設定)

公表されたSPEED Iの予測図によると、伊達市の一部(霊山町石田字宝司沢)で年間積算線量推定値が21.8ミリシーベルトとなり、計画的避難区域の基準値をやや超えている。

- 4月15日、霊山総合支所と石田坂ノ上、八木平行政区長との懇談

- 4月17日、福島県放射線健康リスク管理アドバイザー・長崎大学 山下俊一教授による講演会開催(MDDホール)

- 4月22日、飯舘村全域、川俣町の山木屋地区が「計画的避難区域」の指定

- 4月23日、霊山総合支所と石田坂ノ上、八木平行政区長との懇談

- 4月27日、記者会見で枝野官房長官が「伊達市の指定は検討せず」と発言

- 5月14日、坂ノ上・八木平区において原発事故に関する説明会を開催
- 5月16日、飯舘村、川俣町の山木屋地区が避難を開始
- 5月19日、坂ノ上・八木平区の各世帯へ意向調査実施  
(内容、一時的避難の希望の有無など)

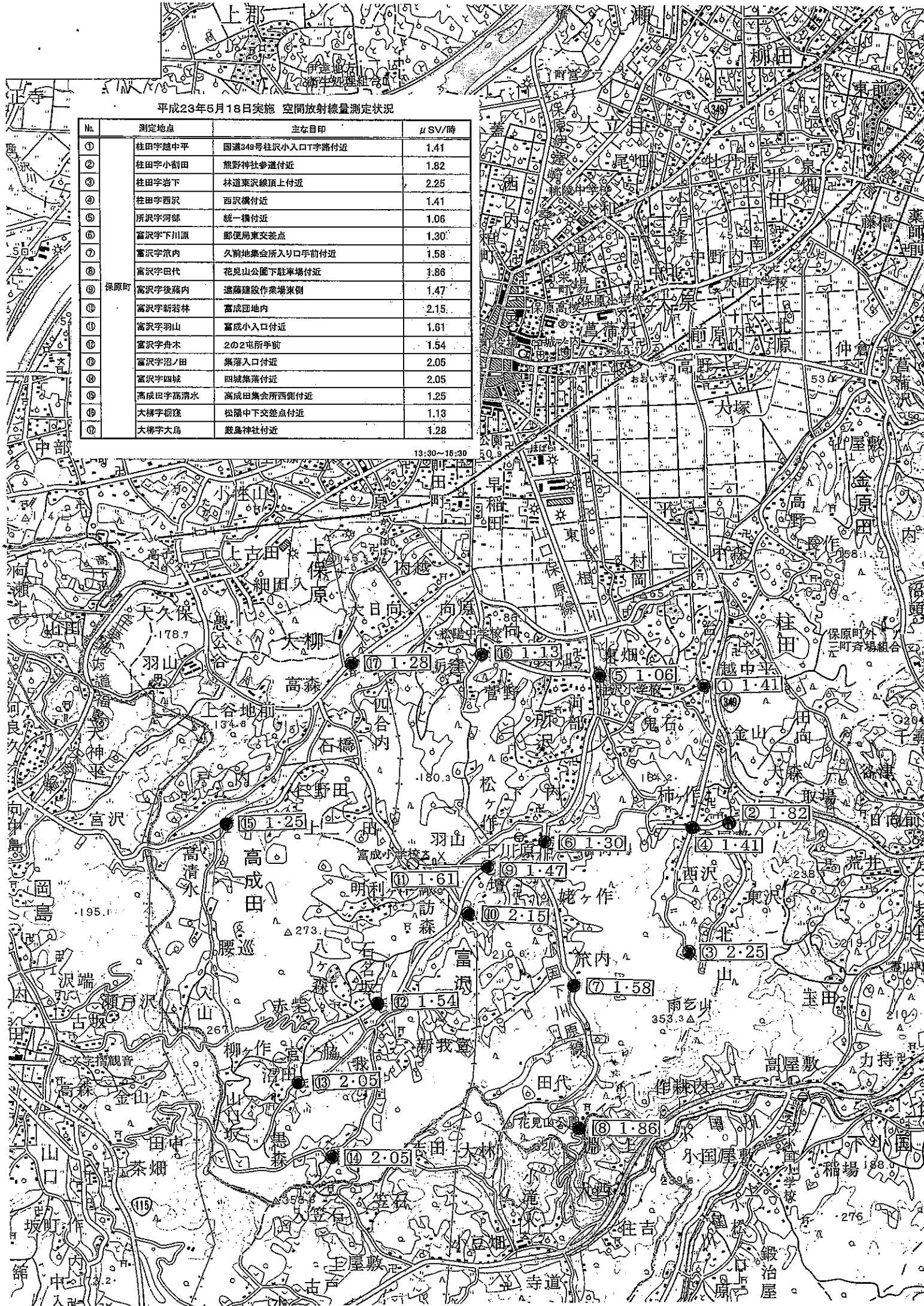
※ 5月12日に市民生活部で国道115号線沿いを計測した結果は別紙のとおりであり、年間積算線量が20ミリシーベルトとなる3.8マイクロシーベルト/時以内に収まっている。ただし、土壌の上(庭先)ではやや数値が高くなる傾向がある。

(計算例)

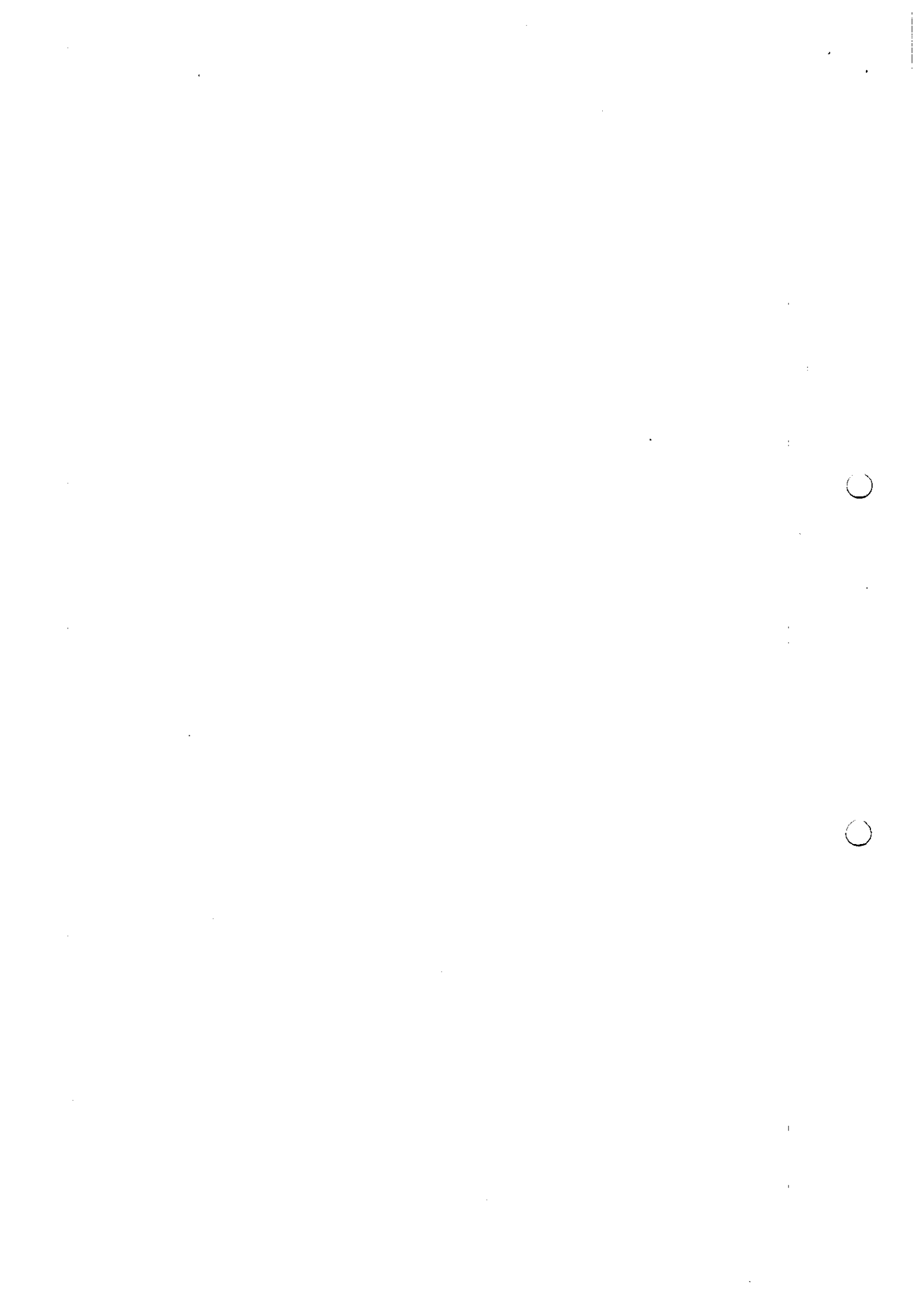
$$\begin{aligned}
 & 3.8 \mu\text{Sv/h} \times 8 \text{時間 (屋外)} = 30.40 \mu\text{Sv} \\
 & \underline{+ 3.8 \mu\text{Sv/h} \times 16 \text{時間 (屋内)} \times 0.4 = 24.32 \mu\text{Sv}} \\
 & \text{1日 } 54.72 \mu\text{Sv} \times 365 \text{日} = 19,972 \mu\text{Sv} \approx 20 \text{ミリシーベルト}
 \end{aligned}$$

平成23年5月18日実施 空間放射線量測定状況

No.	測定地点	主な目印	$\mu$ SV/時
①	柱田字越中平	国道349号柱沢小入口T字路付近	1.41
②	柱田字小割田	熊野神社参道付近	1.82
③	柱田字岩下	林道栗沢線頂上付近	2.25
④	柱田字西沢	西沢橋付近	1.41
⑤	所沢字河部	統一橋付近	1.06
⑥	富沢字下川原	郵便局東交差点	1.30
⑦	富沢字筑内	久前地集会所入り口手前付近	1.58
⑧	富沢字田代	花見山公園下駐車場付近	1.86
⑨	富沢字後藤内	遺構建設作業場東側	1.47
⑩	富沢字新若林	富成団地内	2.15
⑪	富沢字羽山	富成小入口付近	1.61
⑫	富沢字舟木	2の2電所手前	1.54
⑬	富沢字沼ノ田	兼落入口付近	2.05
⑭	富沢字四城	四城集落付近	2.05
⑮	高成田字高清水	高成田集会所西側付近	1.25
⑯	大柳字橋窪	松隈中下交差点付近	1.13
⑰	大柳字大島	熊島神社付近	1.28



13:30~15:30



## 伊達市の保育園や幼稚園の園庭表土の除去等について

平成23年5月23日

教 育 部  
こ ども 部

## 【目的】

・4月に行なわれた環境放射線モニタリング調査に基づき、学校の校舎や校庭等の利用判断の暫定的な目安が文部科学省から公表され、この目安を指針とし校舎等の利用による教育活動を促してきた。

また、伊達市においては、国が示す基準の時間 3.8 マイクロシーベルトを越す小国小学校、富成小学校・富成幼稚園の校庭等の表土除去を行い空間線量の低減化を図ってきた。

しかしながら、幼稚園や小中学校の保護者からは園庭・校庭の表土除去についての要望があり、特に、保育園や幼稚園の園児が寝転んだり、土いじりなどの遊びが多いことから、放射性物質を体内に取り込む可能性が大きく、このための内部被曝を避けるため園庭の表土を除去することを検討してきた。

このような現状を踏まえ、伊達市は、幼稚園や保育園等の園庭表土の除去と小学校に仮置きしている表土を文部科学省の「空間線量低減策」の検討結果を踏まえて対応する。

## 【対応及び対象幼稚園等】

・市内の保育園・幼稚園の園庭表土を除去する。(私立等は事業者と協議して行う。)

幼稚園	公立	12園	私立	3園	計	15園	
保育園	公立	3園	私立	6園			
	認可外	2園			計	11園	合計26園

・小国小学校と富成小学校に仮置きしている表土は、まとめて地下に集中的に置く。

(手法は、文部科学省の空間線量低減策の検討結果に準じて行う。)

## 【表土除去処理方法】

・表土5cm層程度を除去し、処理土は原則敷地内に文部科学省の空間線量低減策によりまとめて地下に集中的に置く方法で行う。

しかしながら、園庭が狭く埋設場所がない場合は、表土の上下置換法や地域内の公有地等への埋設なども検討し対応する。

## 【工事期間】

・市内の保育園・幼稚園の園庭の表土除去は、設計書等が完成次第、順次施工する。

・小国小学校と富成小学校の仮置き表土についても、設計書等が完成次第、工事を行う。

## 【経費】

・62,000千円程度と試算している。

## 《議会災害対策本部会議において》

・表土除去をしていない残りの小中学校の対応については、できるだけ線量を低く抑える努力をすることとして、今後、表土除去を実施するため検討していきたい旨の考えが市長から示されました。

校舎内において窓の開閉を行った場合の測定値

調査実施日：平成23年5月19日

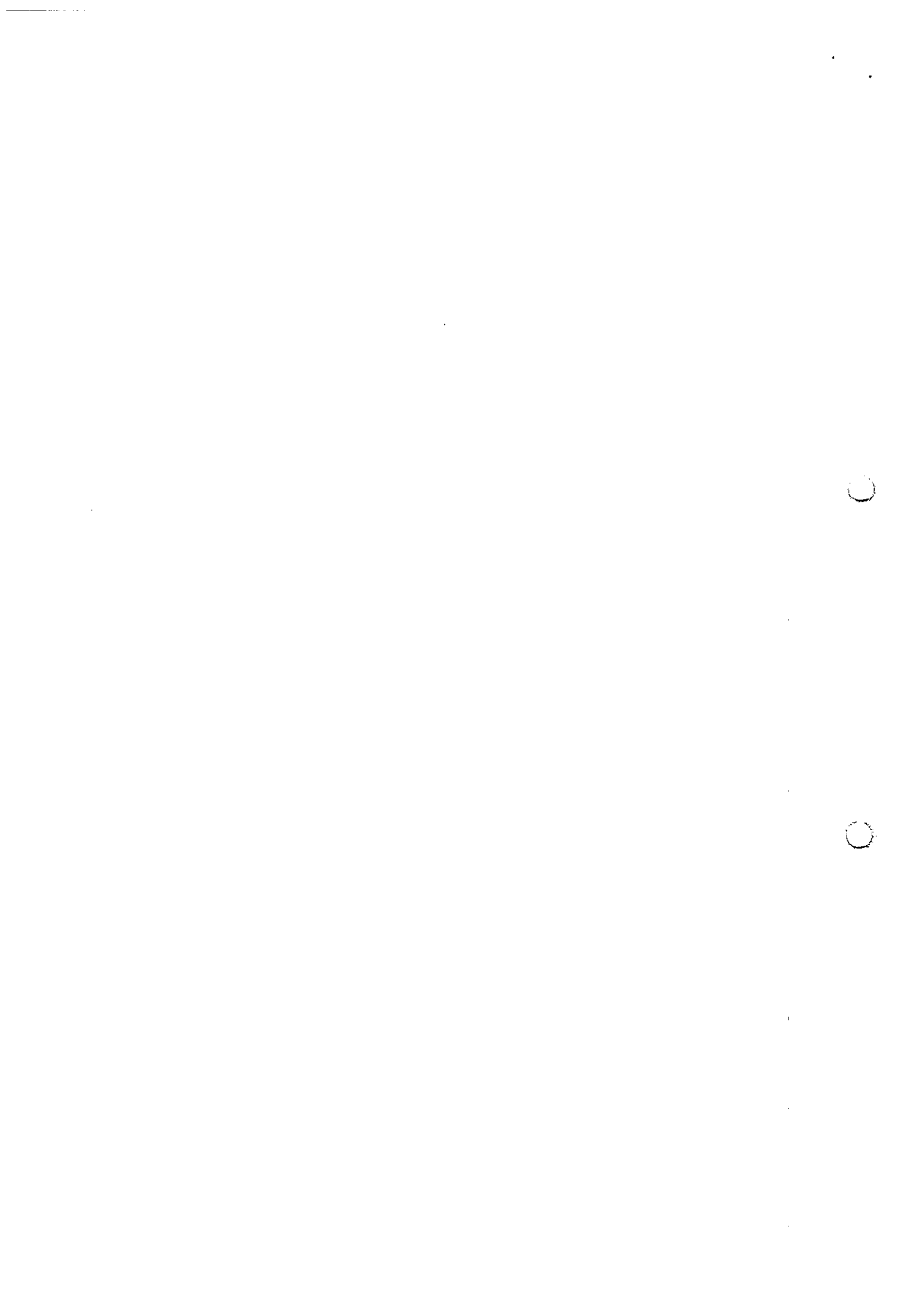
No.	所在地	調査対象学校名	校舎内平均値				校舎内総平均値	
			窓側		教室中央		1m	50cm
			1m	50cm	1m	50cm		
6	本宮市	本宮市立五百川小学校	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2
6	本宮市	本宮市立五百川小学校(窓開)	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2
21	福島市	福島市立大波小学校	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
21	福島市	福島市立大波小学校(窓開)	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3
32	福島市	福島市立御山小学校	0.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2
32	福島市	福島市立御山小学校(窓開)	0.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2
35	福島市	福島市立福島第二中学校 注)	0.6	0.4	0.2	0.1	0.4	0.3
35	福島市	福島市立福島第二中学校(窓開)	0.6	0.4	0.2	0.1	0.4	0.3
37	福島市	福島大学付属中学校	0.6	0.5	0.1	0.1	0.4	0.3
37	福島市	福島大学付属中学校(窓開)	0.6	0.5	0.2	0.1	0.4	0.3
46	福島市	福島県立盲学校	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3
46	福島市	福島県立盲学校(窓開)	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3
49	福島市	福島市立渡利中学校	0.6	0.5	0.2	0.2	0.4	0.3
49	福島市	福島市立渡利中学校(窓開)	0.7	0.5	0.2	0.2	0.5	0.3
50	福島市	福島市立渡利幼稚園	0.9	0.7	0.6	0.5	0.7	0.6
50	福島市	福島市立渡利幼稚園(窓開)	0.7	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6
52	福島市	福島市立渡利小学校	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
52	福島市	福島市立渡利小学校(窓開)	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1
55	福島市	橘高校	0.5	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3
55	福島市	橘高校(窓開)	0.4	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3

注) 窓開のデータは窓開ができた2教室分のデータのため報告1の線量率の値とは異なっています。  
窓の閉止状態の測定から窓の開放状態の測定の間は時間をおかずに測定しています。

## 第6回東日本大震災伊達市議会对策本部会議での要望事項

〔23. 5. 23 AM10:30 本庁特別会議室〕

- ・全壊、半壊の地区別罹災世帯を教えて欲しい。
  - ・表土をはぐ場合は、幼稚園、小学校の現状にあった方法でお願いしたい。
- 
- ・校庭の土を除去する工事を行うときは、PTA、町内会へ説明をしてから実施して欲しい。
  - ・汚泥の処理の自粛、延期の回覧文を回して欲しい。  
既に実施したものは、市で運んでほしい。
  - ・坂ノ上・八木平で避難する方へ、日赤の家電6点セットを貰えるように県に連絡して欲しい。
- 
- ・江払い中止を災害対策号に掲載して欲しい。
  - ・校庭で除去した土を県の遊水地に入れられるか確認をして欲しい。
  - ・放射能測定器を早急に購入して欲しい。
  - ・放射能測定地点を増やして欲しい。





【県内の学校等調査の結果一覧】  
調査実施日：19日 単位：発露/時間

所在地	調査対象学校	校舎外平均値		教室内平均値	
		1校50秒	1校50秒	1校50秒	1校50秒
郡山市	郡山二中	0.9	0.9	0.2	0.1
	セントポール幼稚園	0.9	0.8	0.6	0.4
	藤小	1.1	1.1	0.2	0.1
本宮市	郡山一中	0.9	0.9	0.3	0.1
	郡山三中	0.9	1.0	0.2	0.1
	五百川小	1.9	2.1	0.3	0.2
一宮市	第四保育所	2.4	2.7	0.7	0.6
	和田幼稚園	0.6	0.6	0.6	0.5
	和田小	0.6	0.6	0.2	0.1
二本松市	石井幼稚園	0.7	0.7	0.4	0.3
	石井小	0.8	0.7	0.4	0.2
	山下小	2.3	2.5	0.4	0.2
松島町	まつが丘保育所	1.8	2.1	0.4	0.4
	杉田小	0.6	0.6	0.3	0.2
	杉田幼稚園	0.6	0.6	0.2	0.1
福島市	二本松二中	1.1	1.2	0.5	0.2
	小浜中	2.2	2.4	0.5	0.4
	下川崎小	2.8	3.2	0.7	0.3
郡山市	大久保小	2.3	2.6	0.3	0.2
	南向台小	2.8	3.1	0.4	0.3
	大波小	2.9	3.4	0.4	0.3
福島市	岡山小	2.1	2.2	0.2	0.1
	聖心三育保育園	1.4	1.5	0.4	0.3
	三育幼稚園	1.8	1.6	0.6	0.5
郡山市	福島養護学校	1.9	2.0	0.3	0.2
	御山保育所	2.0	2.2	0.6	0.4
	御山小	2.9	3.1	0.4	0.2
郡山市	信陵中	1.9	2.1	0.3	0.1
	平野中	2.1	2.3	0.3	0.1
	福島二中	2.6	2.8	0.6	0.3
郡山市	福島大付属幼稚園	2.4	2.6	0.6	0.5
	福島大付属中	2.4	2.6	0.6	0.5
	福島成蹊中	2.7	2.8	0.2	0.1
郡山市	信陽中	2.0	2.1	0.3	0.1
	福島一中	2.4	2.6	0.5	0.4
	福島三小	3.0	3.2	0.3	0.2
郡山市	福島二小	2.8	2.9	0.4	0.2
	坂の聖母学院幼稚園	2.5	2.8	-	-
	坂の聖母学院小	2.4	2.6	0.5	0.3
郡山市	福島大付属小	2.6	2.8	0.3	0.1
	県立盲学校	2.2	2.5	0.4	0.3
	渡利保育所	2.4	2.8	0.9	0.8
郡山市	子どもの家さくら	0.8	0.8	0.9	0.8
	渡利中	2.9	3.1	0.6	0.5
	渡利幼稚園	2.8	3.0	0.9	0.7
郡山市	さくら保育園	2.1	2.2	0.3	0.2
	渡利小	2.8	2.7	0.2	0.1
	福島東陵高	2.7	2.8	0.3	0.2
郡山市	福島成蹊高	2.7	2.8	0.2	0.1
	福高	2.6	2.8	0.5	0.4
	小国小	0.8	0.7	0.6	0.5
伊達市	富成小	0.6	0.6	0.2	0.2
	山越小	3.3	3.7	0.7	0.6
	玉野幼稚園	2.6	3.0	0.5	0.4
相馬市	玉野中	2.9	3.2	0.4	0.4
	玉野小	2.6	3.0	0.5	0.5

# 3号機上空不安よぎった

## 放水へリ部隊が吐露

福島第一原発3号機に水を投下した陸上自衛隊第1ヘリコプター団の飛行隊長らが20日までに、共同通信などの取材に初めて応じ、当時の状況を語った。放射線への恐怖心はなかったとしながらも「原発上空では不安がよぎった」「全員に異常がなくてよかった」と吐露。隊長らの話から、決死の任務を再現した。取材に応じたのは、CH47ヘリコプターによる水投下を指揮した第104飛行隊隊長の加藤憲司(2佐39)、ヘリの機長を務めた伊藤輝紀(3佐41)、前原敬徳(1尉37)ら。3号機の使用済み燃料プール冷却のため、3月17日午前、4回にわたり計約30トの水を投下した。「命令」が出たのは放水当日の早朝。加藤隊長は自らもヘリの一番機に乗り込んだ。健康診断を済ませた隊員は、ヨウ素剤を服用して搭乗。1番機の伊藤機長は「恐怖はなかったが、防護マスクに防護衣、鉛のシートも着て動きづらく、



取材に応じる(左から)加藤憲司(2佐)、伊藤輝紀(3佐)、前原敬徳(1尉)

### 1割か今後復興事業

郡山市のNPO法人「うつくしまNPOネットワーク」は20日までに、県内NPOの震災後の支援活動に関する調査結果をまとめた。調査では約4割の団体が今後、震災からの復興支援事業に取り組む考えを示した。同NPOが4月中旬に県内566団体の中から、連絡の取れる498団体を対象に調査を実施。約2割に当たる10

### NPO 障害者、育児支援へ

震災直後の支援活動では、%は未定とした。回答のあった団体のうち53%の団体が支援活動に取り組んだ。支援の内容は主に、避難者の受け入れや避難所ボランティアなどで、障害者に特化した活動を行った団体もあった。団体の多かったという。震災被害では、浜通りの3団体を含む4団体が活動不能となった。30団体は建物が一

目駐屯地(仙台市)を離陸したのは午前8時56分。約80秒南の3号機は折れ曲がった建屋の鉄骨をさらけ出していたが、2番機の前原機長は「建屋から煙が見えても動揺はなかった」。ヘリ2機は高さ100メートル、時速約370キロで3号機に近づく。整備員がヘリ底部

のハッチに取り付けたフックを確保する。9時48分。伊藤機長の指示で別の整備員がボタンを押して、3号機に向けて水を浴びせた。前原機長は「達成感でいっぱいだが、あまり思い返したくない。原発上空で実際に(水を)まくところまで行くと、少し不安がよぎった」と語った。午前10時に放水4回を終え、除染後に2機が暫く駐屯地に戻ったのは午後2時9分。加藤隊長は「全員に異常がなかったのを確認して初めてほっとした」と振り返った。

【窓の開閉を行った場合の測定値】  
調査実施日：19日 単位：発露/時間

所在地	調査対象学校	窓開		教室中央		校舎内平均値	
		1校50秒	1校50秒	1校50秒	1校50秒	1校50秒	1校50秒
本宮市	五百川小	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2
	(窓開)	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2
	大波小	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
郡山市	(窓開)	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3
	御山小	0.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2
	(窓開)	0.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2
福島市	福島二中	0.6	0.4	0.2	0.1	0.4	0.3
	(窓開)	0.6	0.4	0.2	0.1	0.4	0.3
	福島大付属中	0.6	0.5	0.1	0.1	0.4	0.3
郡山市	(窓開)	0.6	0.5	0.2	0.1	0.4	0.3
	県立盲学校	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3
	(窓開)	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3
郡山市	渡利中	0.6	0.5	0.2	0.2	0.4	0.3
	(窓開)	0.7	0.5	0.2	0.2	0.5	0.3
	渡利幼稚園	0.9	0.7	0.6	0.5	0.7	0.6
郡山市	(窓開)	0.7	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6
	渡利小	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
	(窓開)	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1
郡山市	福高	0.5	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3
	(窓開)	0.4	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3

※保育園・幼稚園・小学校は校舎外の50センチの高さ、中学校は1校の高さで判断。教室内の平均値は、任意の3教室の測定結果の平均値

### 放射線量 全校基準値を下回る

文部科学省は20日、県内の学校や保育施設で19日に放射線量を測定した結果、放線線量を測定した結果、すべての学校、施設で屋外活動制限の基準値である毎時3・8マイクロシーベルトを下回ったと発表した。12・13日の測定に続き、2週連続で全校基準値未満となった。

### 石炭荷揚げ再開

石炭6千トンを積んだ「日興丸」は20日、いわき市の小名浜港に入港、作業員が石炭を荷揚げした。石炭船の同港入港は震災後初めて。日興丸が入港、接岸した



震災後、初めて行われた石炭の荷揚げ作業。=いわき市・小名浜港

### トラックで転落し男性重傷

0日午後1時45分ごろ、田代町常葉町山根宇平の国道字さき38号で同市常葉町常葉治字19の軽トラックが道路脇の溝に転落し、田代町山根宇平の55歳の男性が重傷を負ったとみられる。田代町山根宇平の55歳の男性が重傷を負ったとみられる。

